

体と心を健康にする「安い・安全・効果があった」知恵をお伝えします

知恵の木

vol.4

編集者歴21年の

プロライターが教える

小論文
レポート



読み手が楽に理解できる

文章構成を心がける

なにが悪文なのか 考えてみよう

最初に、「こんな構成で小論文やレポートを書いたら試験に落ちる」という悪文を紹介します。ちなみにこの悪文は、私がブログに書いたものです。

悪文である理由を考えてください。

地域のイベント盛りだくさん！ 市川市の子ども会に参加しませんか？

凧作りも教えてもらえる凧揚げ大会や田植え、稲刈りなど、子ども会が主催するイベントに参加

させてもらって、子どもに新しい体験が増えてよかったですと思っています。

私の場合は、ママ友の紹介で子ども会に入りました。紹介がなければ、子ども会の存在すら知らなかったかもしれません。

子ども会（正式名称は「市川市子ども会育成会」）は、市川市教育委員会青少年育成課の管轄です。「子どもの健全な育成を地域に住む人々で見守ろう」という趣旨で作られた子ども会。『市川市子ども会育成会だより ふれあい』2017年96号によると、市川市内には98団体の子ども会があります（平成29年1月31日現在）。

各子ども会では凧揚げ大会やもちつき大会、デイキャンプなど、さまざまなイベントが開催されています。こうした活動は、地域の皆さんの協力で支えられているのです。少子高齢化で子どもの人数が減り、活動がストップしていた子ども会もあります。昨年は3つの子ども会が復活したと、『市川市子ども会育成会だより ふれあい』に書かれています。

自分が住む地域の子ども会について知りたい場合や、入会したい場合は、市川市教育委員会青少年育成課に問い合わせるとよいそうです。市川市のホームページ内でも、子ども会について詳しく紹介されていました。

個人的な感想ですが、子ども会の活動は、広告などが目的で企業が開くイベントとはまったく違います。「係の人が丁寧にサービスしてくれる」「参加料が明示されていないから無料で参加できる」というものではありません。

商業的なサービスに慣れ切った生活の中で、あの意味、子ども会活動は不便かもしれません。子ども会には、いつもお世話してくださる方々との人間関係もありますし、親として私たちも能動的に活動に取り組む必要もあるでしょう。

話は変わりますが、杉並区和田中学校の校長を務めていた藤原和博氏を私は取材したことがあります。藤原氏は著書がかなり多く、どの本かは忘れたのですが、次のようなことが書かれています。

「教師と生徒、親と子は『タテの関係』。子ども同士は『ヨコの関係』。タテ・ヨコとは違う『ナナメの関係』を地域の人々やおじ・おばと作る事が、子どもの教育には大事である。

昔は、人生経験豊富で結婚をしていないおじ・おばが近所に住んでいて、教師や親とは別の立場で子どもの相談に乗っていた。『ナナメの関係』こそが、豊かなコミュニケーションを子どもに与え

ているのである。」

藤原氏は子ども人間関係を家にとえ、柱・梁だけでなく筋交い、つまり「ナナメの関係」が入ることで、地震のような大きな人間関係のトラブルが起こってもびくともしない子どもが育つと語っていました。

この「ナナメの関係」が、子ども会に参加することで生まれるのではないのでしょうか。便利・不便という観点を離れて、子ども会への参加について考えてもらえればと思った次第です。

ちなみに、私が藤原氏に取材したテーマは「成熟社会」でした。日本は成長社会から成熟社会に移行しているとのこと。すでに正しいとわかっている「正解」ではなく、多くの人が納得できる「納得解」を出す力を大人も子どもも持ったほうがよいそうです。「ナナメの関係」を作って、さまざまな年代の人と交流する場を持つことは、「納得解」を考える訓練になりそうです。

い話題に転じています。この**4部構成が、読み手の混乱を招く**のです。

ブログの文章ならば何部構成だろうとかまいません。しかし自分の考えを伝える文章では、「はじめ」「なか」「おわり」の3部構成で仕上げます。

「地域のイベント盛りだくさん！ 市川市の子ども会に参加しませんか？」を3部構成で書き直しましょう。

地域のイベント盛りだくさん！ 市川市の子ども会に参加しませんか？

毎年1月に近所の公園でもちつきが行われ、大勢の親子がおもちを食べている様子を目にしたことはありませんか。

こうしたもちつき大会をはじめ、凧揚げ大会や田植え・稲刈り体験など、親子で参加できるイベントを主催しているのが子ども会です。

タイトルと関係ない 話題は削除する

以上の文章の**最もダメな点は、主題がどんどん**それていっていること。タイトルは「子ども会に参加しませんか？」なのですが、文章の最後のほうでは人間関係論になっています。子ども会への参加を促したいのか、豊かなコミュニケーションをはぐくむ人間関係を作ってほしいのか、読み手はピンと来ないでしょう。

思いついたことをダラダラ書くのは、ただの自己満足。読み手に何も伝わらない文章を作ることになります。

加えて、子ども会のイベントの紹介↓子ども会の入り方・注意点↓人間関係論↓子ども会ではぐくまれるであろう人間関係、という4部構成。「話は変わりますが」で、タイトルとは全く関係のない

「自分が住む地域の子ども会について知らない」「入会方法がわからないので、イベントに参加できない」という声が届いたので、今回、市川市の子ども会への参加方法をお伝えします。**(ここまでが「はじめ」)**

子ども会の正式名称は「市川市子ども会育成会」で、市川市教育委員会青少年育成課によって管轄されています。

『市川市子ども会育成会だより ふれあい』2017年96号には、平成29年1月31日現在、市川市内に98団体の子ども会があると書かれています。もちつき大会などのイベントは、各子ども会によって開催されています。

地区ごとに分かれて子ども会は運営されていて、「つくし」「うぐいす」「おひさま」など名称もさまざまです。

「自分が住む地域にはどんな子ども会があるのか」「入会する場合はどんな手続きが必要なのか」

の問い合わせ先は、市川市教育委員会青少年育成課です。詳しくは、市川市のホームページ内にある市川市子ども会育成会連絡協議会のページをご覧ください。**（ここまでは「なか」）**

子ども会の活動は、地域の皆さんの協力で支えられています。少子高齢化の影響で、子ども会に協力してくださる方や子ども的人数が減り、活動がストップしていた子ども会もあるそうです。

田植えや稲刈りは、普段の遊びではできない体験です。また凧揚げ大会では、和紙と竹ひごで凧を作る方法も教えてくれます。

私たち親子は子ども会のイベントで初めて体験したことも多く、とてもありがたいと感じてきました。

子ども会の活動がこれからも続くように、子ども会に参加する親子が増えることを願っています。

（ここまでは「おわり」）

小論文の基本

たくさん書くことで上達する

数をこなすことで技術が上がるのは、すべての作文に当てはまります。頭の中で「自分はこんなことが書けそう」「すばらしい発想がある」と思い巡らせても、作文はまったく上達しません。「私は書ける、書ける、書ける……」と念じるのも時間の無駄です。手を動かして書く作業が、作文の技術を向上させるのです。

例えば、あるダンスグループが好きで、自分もダンスが上達したいと思つたとします。そのグループのダンスの動画を何百回見たところで、踊れる

情報・意見を伝える文と 自分を表現する文を区別する

文章を作る目的は次の2つに分けられます。

○情報・意見を伝える「伝達の文章」

○自分を表現する「表現の文章」

小論文とレポートは、伝達の文章です。ですから、「はじめ」「なか」「おわり」という3部構成の型に落とし込んで、伝えたいことを整理する必要があります。

「型だけ整えてもダメ。中身が大事」というのは真逆。型が整わないというのは、中身が貧困である証拠なのです。

「はじめ」「なか」「おわり」の3部構成で、自分の考えを書く練習を繰り返すことが、小論文・レポートを上達させる王道です。上手に書く必要も、センスを磨く必要もありません。まずは自分の手で書く習慣をつけましょう。

ようにはなりません。

作文も同様に、体（手）を動かすことで少しずつ技術が身に着くのです。

頭の中のない情報は書けない

これも作文すべてに当てはまります。書く分量の3倍以上の情報が頭になければ、文章化はできません。800字の原稿を書くときには、2400字以上の情報を持つていなければいけないということです。

「頭の中にある情報」には、本やインターネット

などで仕入れた外部情報と、頭の中で生まれた脳内情報があります。

外部情報の2倍以上の脳内情報を作る

外部情報をつぎはぎした文章は、小論文でもレポートでもありません。単なる引用です。外部情報をもとに頭の中で作り出した脳内情報、つまり自分の意見を、わかりやすく表現するのが小論文・レポートです。

他人に読んでもらう

宿題として書く読書感想文については、既定の文字数の原稿を書くことが目標です。日本語のルールにのっとって書いていけば、担任教師も合格とするでしょう。

一方、小論文・レポートの目的は自分の考えをわかりやすく周囲の人に伝えることにあります。良しあしは書き手の自分で決められません。周囲の人が決めるのです。読み手が「何を言いたいのかわからない文章」と判断した時点で不合格になります。

小論文・レポートの上達が目的で他人に読んでもらうときは、年代の違う人を選びましょう。さまざまな年代の人に自分の意見を理解してもらえようになれば、作文の達人になったといえます。

読み手の気持ちになる

小論文・レポートは入学試験や採用試験で取り入れられています。そもそも、どうして受験者に書かせるのでしょうか。学校の場合と企業の場合で私なりに考えてみました。

学校の場合は、学校の社会的地位を上げてくれる魅力的な学生に入学してほしい

少子高齢化で、学校経営は厳しくなっています。そんな中、在学生や卒業生が特別な活動で有名になることは、学校の宣伝になるので大変好ましいのです。通常のテストではパツとしない成績の学生でも、小論文・レポートでずば抜けた成績ならば見どころがあるから入学してほしいわけです。

企業の場合は、働く仲間として受け入れたい人、そうでなくても大きな利益を出せそうな人を採用したい

小論文・レポートは、読み手に自分の意見を伝える文章です。書き手が自分なりに勉強しているか、懸命に考えて自分の意見を持っているか、読み手という周囲への思いやりがあるかどうかは、文章から読み取れるわけです。努力と協調性。同じ職場で働く仲間には備わっていてほしい性質を、

試験官は文章から判断します。

加えて、独りよがりな意見であったとしても、ズバツと核心を突き「これはおもしろい」と読み手を引き付ける小論文・レポートは、書き手の将来性を感じさせます。画期的な商品を開発して企業に利益をもたらすかもしれないと、試験官は考えるわけです。

以上のように、見どころがある人物かどうかを判断するために、入学試験や採用試験で小論文・レポートが取り入れられているということです。

自分をよく見せようとして、思ってもいないことを書いたり、あまり理解していないことを書いたりすると、読み手は「信用できない人物」と判断する可能性があります。

小論文・レポートを読むのは学校の教師や採用担当者というプロの読み手です。そのような読み手を相手に文章を書いていることを自覚しておきましょう。

自分の文章に

「私」と「あなた」がいるか考えよう

**「私」がない文章は
くだらなくて腹が立つ**

市川駅の南側にある、雰囲気の良いコーヒー店での出来事です。

そのコーヒー店では、コーヒーのいれ方もカップも実に行き届いています。店内にアンティークのカップが飾られていたり、芸術雑誌などが置かれていたり、あくまでも「コーヒー」にこだわっていることが伝わってくるのです。

コーヒーを飲みに来た私の横のテーブルに座っ

ていた、大学生とおぼしき男女2人組が大声で話していました。

特に声大きいのが男性。

「この間のアメリカの大統領選挙がさ、ああいう結果になったわけよ。それには裏でいろいろとかかわりがあったてさ、別の国のあの事件も絡んでいるんだよね。でさ……」

私が店にいた約30分は、男性が政治や経済について自慢げに話し続けていました。聞きたくもないのに、内容が全部私の耳に入ってきました。

内心、思いました。

「この男性は、冒頭の悪文のような、実にくだらない小論文やレポートしか書けないだろう」

その理由は次の3つです。

- 1 話が全部ネットニュースの受け売り
- 2なのに、偉そう
- 3 相手の女性の話を遮る
- 4 他の客への配慮がなく、コーヒー店の雰囲気を壊している

どこかで仕入れてきた情報には「私」がありません。こうした情報をつぎはぎしただけでは、話題がぐるぐると回ってしまい、結局は何の話なのか、聞き手も読み手もわからなくなってしまうのです。

結論、つまりオチがなくても、会話の場合はあまり気にならないかもしれませんが、しかし、文章だと致命的で、読み手をいらだたせる可能性が非

常に高くなります。

では、男性はどのように話せばよかったのでしょうか。

「日本政府は○○という行動を取ったほうがいいと僕は思っている。その理由はね、アメリカの大統領選挙の結果だよ。(中略) そうすると××という方向に流れが変わると予測している」

「僕は○○に投資しようと思っているんだ。その理由はね、アメリカの大統領選挙の結果だよ」

このように、「私(僕)」の判断や行動をオチとして盛り込むのです。

**「あなた」がない文章は
単なる自己満足**

聞き手の反応や周囲の雰囲気、ひいては読み手

のプロフィールを想定せずに話したり書いたりするのは、大迷惑。自己満足にすぎないと肝に銘じましょう。

要注意なのは、話したり書いたりしている最中に、「気持ちいい」と感じることに。一人で突っ走って、「あなた」が見えていない可能性が非常に高いと言えるでしょう。

「話し上手」「自分は書けるほうだ」と思っている人も、周囲の反応を振り返ることをお勧めします。

文章を書くことは、会話と同様、他人とのコミュニケーションです。

コミュニケーションは、キャッチボールにたとえられます。キャッチボールでは、相手のグラブを見ながら、相手の技術を考慮して、相手がキャッチしやすいようにボールを投げます。文章も相手、つまり「あなた」に合わせる工夫が必要です。

文章を上達させたいのならば、年齢や文化的背景がまったく異なる相手と話す機会を持ちましょう。父親や母親、祖父母でもかまいません。仲の良い友人としか会話をしていない人は、語彙が少なく、文章にメリハリがありません。

若者の中に「ワタシ的には……」「○○って××じゃないですか」とよく口にする人がいます。友人同士はともかく、年長者相手にこうした言葉を口にするのはやめたほうがいいでしょう。押し付けがましいうえ、「だれがそう決めたんだ？ 自分だけだろう」と相手をいら立たせる可能性が高いからです。決めつけは厳禁で、意見には根拠を添えましょう。

前述しましたが、小論文・レポートを読むのは学校の教師や採用担当者という年長者です。そのような読み手を相手に文章を書く必要があります。

小論文・レポートに 優等生的発言はいらない

「私はあなたに伝えたい」が
大事

ときどき、次のように話す人がいます。

「私は作文が上手に書けないの。下手だから、うまく伝わらないんだよね」

「僕には作文のセンスがない。だから書けない」

小説や物語を書くには、確かに技術とセンスが必要です。しかし、小論文・レポートとは一切関係がありません。加えていえば、得意・苦手も、どうだっていいのです。

小論文・レポートで最も重要なのは「私はこの

ことをあなたに伝えたい」という強い目的意識です。断わっておきますが、「強く願えば、かなう」的な精神論ではありません。

私は21年にわたり、たくさんの方の文章に接してきました。あまりにも量が多かったおかげで、「よくわかっていないくせに、適当に原稿をまとめたな」「ちよつと舌足らずな印象だけど、訴えてくるものがある」など、書き手がどんな態度で作った文章であるかがわかるようになりました。

おそらく、学校の教師や採用担当者も同じ経験をしているでしょう。

むしろ、文章を読めば読むほど、上手・下手や

センスよりも、内容と態度を重視するようになるはずだ。

ですから、文章を書くのが苦手な下手でセンスがない人ほど、技術やセンスにおぼれる可能性が低いので、小論文・レポートではチャンスが広がるのです。

いろいろな理由をつけて書くことから遠ざかっていたら、自分の思いを伝える文章は書けません。国語の成績が悪かろうが、書いた経験がなかろうが、そんな過去のことはどうでもいいのです。将来の自分のために、これから書く習慣をつけてほしいと思います。

「くべきだ」「努力したい」は禁止!

小学校の学級会が尾を引いているのでしょうか、

まったく問題ありません。しかし、そうでない人の場合は、小論文・レポートでウソを書くことになりません。ウソがばれると、周囲からの信用がなくなります。ですから、「前向き」呪縛から自分を解放することが大事です。

ちよつとカッコイイ表現をすれば、「自分にとつ



オチを「くべきです」「努力したい」といった表現で締めくくる人は少なくありません。

私は小学生の読書感想文も指導しているのですが、こうした表現で文章が終わっていたので違和感がありました。そしてつい「どうしてそう思ったの?」「努力の内容って、何? 明日から何をやるわけ?」と突っ込みを入れてしまいました。

こうした締めくくり方で特に気になるのが、その前段とまったく関係がないケースです。文章の流れを無視して、具体的な説明もなく、唐突に優等生的な発言で終わっているのです。読み手はあっけにとられます。

どうやら、「どんなに困難で、くじけそうでも、未来を信じて、前向きでいなければ」という呪縛にとらわれているようです。

どんな困難な状況でも前向きでいられる人は、

ての真実は何だろうか?」「この真実をあの人に伝えるにはどうしたらいいだろうか?」を、小論文を書くときには突き詰めてほしいと思います。

小論文・レポートで大事なものはウソを書かないこと。

ウソを書いて試験をパスしても、面接でボロが出る可能性は非常に高いと言えます。ウソがばれた瞬間に、相手からの信用はゼロ。世の中では、たった一つのウソで「ウソつき人間」と人間性を否定されるケースは少なくありません。

ですから、等身大の自分で取り組んでください。

もちろん、自分にとつての真実を突き詰めて書くのは、小説や物語でも変わりありません。内容的な脳内体験をリアリティを持って描いた文章は、文化を超えて、多くの人の心を引き付けています。



知恵の木

本とワークショップ

女性の健康・子育ての「体験型」専門書店

知恵の木

<http://chienoki.d.dooo.jp>

住所 千葉県市川市市川 2丁目 31-21 ※JR市川駅より徒歩約4分

営業時間 月・水・木 14:00-17:00、土 10:30-12:30

店休日 火・金・日・祝日

※店主がフリーライターのため、取材や打ち合わせなどが入ってしまった日は店休日以外でもお休みいたします。誠に恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

※ワークショップや教室を開催している場合は、当店が貸し切りになるときもあります。

選択肢を一つでも多く見つける、一つでも多く伝える

祥知出版

<http://chienoki.d.dooo.jp/shouchishuppan.html>